

■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 電子公告掲載 URL http://cleanup.jp/
単元株式数	100株

【株式に関するお手続きについて】

- 証券会社等の口座に記録された株式
株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せ下さい。
- 特別口座に記録された株式
特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せ下さい。
- 未受領の配当金
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せ下さい。
- 【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 【同連絡先】
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

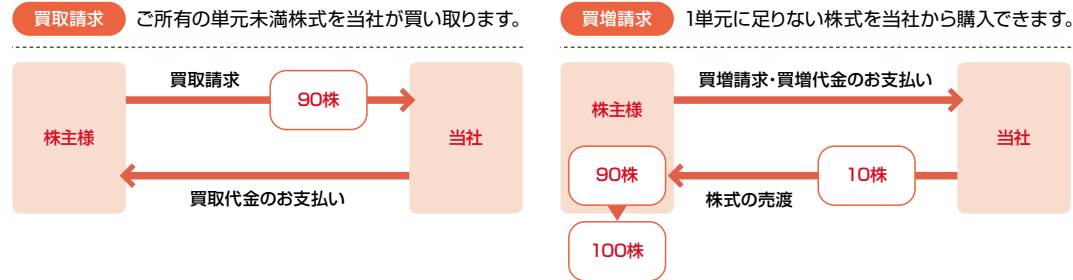


株主の皆さまへ
第60期 報告書
2012年4月1日から 2013年3月31日まで

■ 単元未満株式をご所有の株主様へ

単元未満株式につきましては市場で売買することはできませんが、口座管理機関を通じ、当社に対して買取請求または買増請求をすることができます。お手続きの方法等につきましては、口座管理機関(証券会社等または三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部)にお問合せ下さい。

(例) 株主様が単元未満株式を90株ご所有の場合



■ 特別口座をご利用の株主様へ

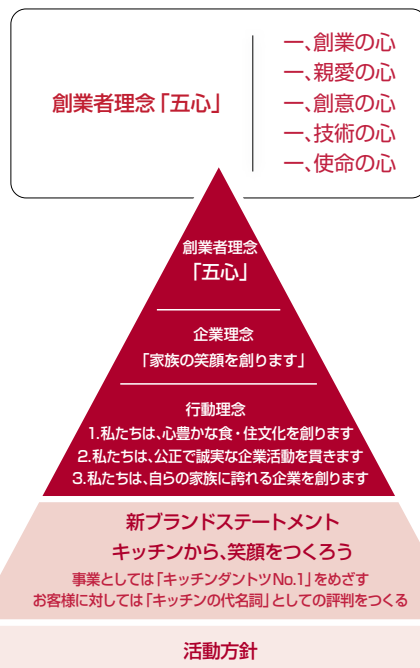
特別口座は証券会社等に開設された口座と異なり、自由な売買ができる口座ではありません。株式の売買等を円滑に実施するため、証券会社等への口座開設および特別口座からの振替手続きをお勧めいたします。お手続きの方法等につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問合せ下さい。



クリナップの企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出しております。

■ 新企業理念



上記三つの理念(創業理念・企業理念・行動理念)に根ざした強い人材・組織・事業を育成することにより、経営を強化/高度化し、“The Kitchen Company”を確立します。

株主の皆さまへ

大幅な増収・増益を実現。
成長戦略の本格化により、
モノづくりの深化と進化を
図ってまいります。



代表取締役社長

井上 強一

2013年3月期 連結決算ハイライト

- 売上高は、当初の増収予想を上回るとともに、前年同期比9.8%増となりました。
- 利益面でも当初予想を大幅に上回り、営業利益が前年同期比100.6%増、経常利益が同109.8%増、当期純利益が同16.3%増となりました。

成長戦略の再開と本格化を主眼とした中期経営計画『12中計』は、初年度となった当期において確かな成果を出し始めております。

皆様のお力添えにより、東日本大震災からの復旧・復興ができましたことを感謝申し上げます。今後は、成長戦略の再開と本格化に取り組むべく、当期(2012年度=2013年3月期)を初年度とする3カ年の中期経営計画『12中計』をスタートさせました。経営基本方針として「12中計を徹底的に推進し、“ザ・キッチンカンパニー”を確立する」ことを掲げております。“ザ・キッチンカンパニー”とは、「キッチンと言えばクリナップ」という消費者の認識と当社への信頼を向上・確立していくために、当社自らがキッチンの専門メーカーとして更なる進化を遂げていく、という思いが込められた言葉です。

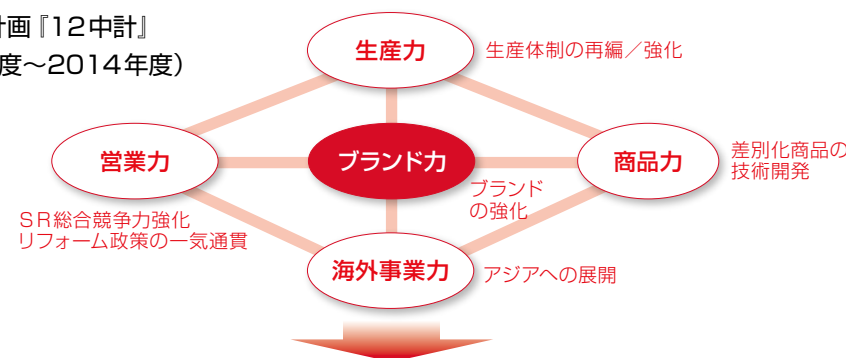
業績面からみると、当期は連結売上高が前年同期比9.8%増と2桁近い増収となるとともに、連結営業利益は同100.6%増と大幅な増益を果たし、成長戦略の成果が初年度から出てきているものと評価できます。

具体的な施策展開においては、下図の通り、「ブランド力」を中核に、「生産力」、「営業力」、「商品力」、「海外事業力」という5つの力を強化・確立していくことを目指して、積

極的な取り組みを行っております。

この5つの施策のうち、当期は特に、「生産力」と「営業力」の強化について、将来の成長を見据えた重要な取り組みを行っております。「生産力」の強化については、震災の経験を踏まえ、事業継続計画(BCP)の観点から生産機能のリスク分散体制を確立すべく、従来の「いわき事業所」に加え、「岡山・津山2工場」でもキッチン生産が自己完結できるよう、『東西2生産拠点体制』の構築に着手いたしました。また、「営業力」の強化については、震災からの復旧・復興を第一優先とした前期において抑制していたショールームへの投資を再開し、当期は都市型の大規模ショールーム「キッチンタウン・クリナップ・大阪」を2012年7月にオープンするとともに、2012年4月から2013年3月までの1年間で全国14カ所のショールームを全面リニューアルオープンさせるなど、ショールームの提案力強化への積極的な投資を行いました。この結果、当期の来場組数は前年同期比8.2%増の510,627名に及んでおり、これが増収の一因となっているものと評価しております。

■ 中期経営計画『12中計』 (2012年度~2014年度) の全体像



“The Kitchen Company”の実現

株主の皆さまへ

2013年度は、経営基本方針を「ザ・キッチンカンパニーの確固たる確立」とし、キッチン専門メーカーとしてモノづくりの深化と進化を図ってまいります。

当期において確かなスタートを切った『12中計』は、次期2013年度(2014年3月期)に折返しとなる2年目を迎えます。2013年度は成長戦略をさらに前進させるべく、経営基本方針を「ザ・キッチンカンパニーの確固たる確立」とし、キッチン専門メーカーとしてモノづくりの深化と進化に取り組んでまいります。

そのための重点施策として、下図のように、当社独自の受注生産システムである「CPS」(クリナップ・プロダクション・システム)の全社展開による「お客さま満足」の向上を図ってまいります。「CPS」は、お客さまが“欲しいもの”を“欲しい時”に“欲しい数量”だけ提供する、というカスタマーオリエンテッドを実現するものであり、この姿勢を追求することで利益は自然とついてくるという思想・信念を基礎としております。当社はこの思想・信念を、生産の現場だけではなく、営業の現場、物流や取付・設置の現場に至るまで、すべての現場で追求していかうと考えております。そうすることで、より一層、お客さまにご満足いただける商品とサービスの提供が図られ、その結

果が利益へとつながっていくという自然な流れを生み出していくことができるものと確信しております。

また、中長期的な視点に立った成長戦略として「海外事業力」の強化についても『12中計』のテーマの1つとしておりますが、2012年度は中国・ベトナム・台湾などで工場やショールームを設置するなど本格化に向けた準備を行ってまいりました。そして2013年度はいよいよ、「海外事業力」を本格的に強化していきたいと考えております。中国では、進出するハウスメーカーとの共同でキッチン・家具・部品等の生産・供給を2013年度中に開始する予定となっており、また、ショールームについては、中国、香港、台湾、ベトナム等のアジアを中心として、代理店と協働したショールームを開設し、システムキッチンの拡販を図っております。

株主の皆さまには、「ザ・キッチンカンパニー」としての独自の成長を目指した当社の取り組みにご期待いただくとともに、引き続き当社の経営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年3月期 重点施策

「ザ・キッチンカンパニーの確固たる確立」

モノづくりの深化と進化

CPS

クリナップ・プロダクション・システム(受注生産方式)

カスタマーオリエンテッドの追求が利益につながるという思想

欲しいものを 欲しい時に 欲しいだけ 提供する!

営業 生産 物流取付設置

『全体最適』の追求

お客さま満足

特集: “The Kitchen Company” としての取り組み ~ 全国ショールームの活性化



お客さまにもっと笑顔になっていただけるよう、当期は14カ所のショールームをリニューアル。

当社にとってショールームは大切な顧客接点の場。現在、全国各地に102カ所展開しております。これまでもショールームでの価値提供を強化するため、リニューアルを行ってまいりましたが、多様化するニーズに対応するため、当期は14カ所のリニューアルを積極的に行いました。他業種とのコラボや料理教室の充実など、食と暮らしに関する様々なイベントと情報を発信してまいります。

今後も、キッチンを通じて心豊かな食・住文化に貢献する企業として、お客さまに心地よい空間を提案するショールームを作ってまいります。



当期のリニューアルショールーム



1 水戸(茨城県)



2 柏(千葉県)



3 小山(栃木県)



4 熊谷(埼玉県)



5 横浜北(神奈川県)



6 高崎(群馬県)



7 松本(長野県)



8 岐阜(岐阜県)



9 大阪(大阪府)



10 津山(岡山県)



11 広島(広島県)



12 松山(愛媛県)



13 久留米(福岡県)



14 熊本(熊本県)

見て、触って、体感して、いろんな楽しみ方をご用意しています。お気軽に足をお運びください。

全国のショールーム検索はこちら ▶ <http://cleanup.jp/showroom/>

主なトピックス

商品関連

“ステンレスを進化させた”『クリンレディ』。排水口やレンジフードの清掃性を強化。



2011年にステンレスエコキャビネット化し、ますます好評のロングセラーシステムキッチン『クリンレディ』がさらに進化いたしました。最大のポイントは、オプションで選択可能な「とってもクリン排水口」付きシンクと、自動洗浄換気扇『洗エールレンジフード』。卓越したステンレス技術で、さらに高品質なキッチンへと生まれかわりました。

進化
1

とってもクリン排水口



従来の「美・サイレントシンク」が排水口まで一枚のステンレスで一体成形になり、お掃除がしやすくなりました。さらに、親水性の特殊加工でより汚れ落ちがよいシンクを実現。

進化
2

洗エールレンジフード



フィルターとファンを一体化させた新構造のファンフィルターを搭載したことで、従来のフィルター洗浄に加え、ボタン1つでフィルターとファンの同時洗浄を実現。

その他、新色ステンレス扉、カラーステンレスフェイスコンロなどデザイン面での強化や、スリム対面システムなどリフォーム対応力も強化しております。

事業基盤

津山工場を増築し、2013年4月より稼働開始。日本東西での生産体制確立へ。

クリナップ岡山工業(株)津山工場が、システムキッチンカウンターの西日本生産拠点として稼働を開始いたしました。

これまで福島県のいわき事業所のみで生産していたキッチンカウンターを津山工場でも生産し、岡山工場で生産するキャビネットとあわせて、西日本地区におけるシステムキッチンの一貫生産が可能となりました。津山工場にさきがけ、岡山工場についても2012年度より生産能力の増強を開始し、2013年度中には生産能力の強化が完了する見込みです。両工場の強化により、西日本地区の生産能力を向上させ、ショールーム強化と相まって、更なるシェアアップを図ります。



津山工場



岡山工場



いわき事業所



CSR関連

福島県内の被災地復興支援のため、「クリナップ財団」を設立。

福島県内における被災地復興支援の一環として、地域社会の発展に寄与できる人材の育成を目指した「一般財団法人クリナップ財団」を、2012年12月13日に設立いたしました。東日本大震災の被災地である福島県いわき市に生産拠点をかまえる当社は、生産設備や原材料調達手段にダメージを受けながらも、地域の皆さまにご支援をいただき、震災後1カ月にて一部商品の受注を開始、全シリーズ商品については、5カ月で受注・生産が可能となりました。

第4回いわきサンシャインマラソンに特別協賛。女子優勝者に「クリンレディ」を贈呈。

当社が特別協賛した第4回いわきサンシャインマラソンが、2013年2月10日に福島県いわき市で開催されました。優勝賞品の「クリンレディ」を青森市の佐藤由貴選手に贈呈いたしました。



「親孝行って、いいね！」キャンペーンを行い、「親孝行エピソード」でシステムキッチンをプレゼント。

2013年1月14日より、「親孝行って、いいね！」キャンペーンを展開いたしました。このキャンペーンでは、「親孝行」としてキッチンをリフォームしてあげたい」というエピソードをインターネットにて募集、その中からインターネット投票により最も親孝行なエピソードの選考を行い、最優秀エピソード(1名)、優秀エピソード(4名)を発表しました。

グランプリとなる最優秀エピソードには、当社の最高級システムキッチン「S.S.」(工事費込み)を贈呈。また、優秀エピソードには、ブジョーや staub などのキッチン用品(10万円相当)を、さらに、応募された方々から抽選で1,000名様にクオカード(500円)を贈呈いたしました。

「弁当の日」応援プロジェクトに協賛。都内で2校目の実施。

子供による弁当作りを通じた食育活動「弁当の日」応援プロジェクトに協賛。都内で2校目の実施小学校となる荒川区立第六日暮里小学校での「弁当の日」実施を支援いたしました。

子供たち自作のお弁当▶



荒川区主催の節電コンテスト「我が社の節電テクニック」で優秀賞受賞。

東京都荒川区環境課が主催した、事業者の節電のテクニック・アイデア等を競うコンテスト「我が社の節電テクニック」で優秀賞を受賞いたしました。

荒川区のマスコット・あら坊と▶
クリナップ公式キャラクターのクリ夫





連結ハイライト情報／連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

(百万円)

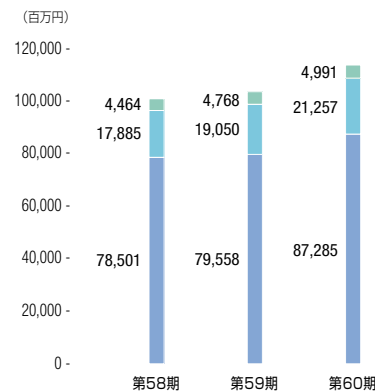
	第58期 2011年3月期	第59期 2012年3月期	第60期 2013年3月期
売上高	100,851	103,377	113,533
営業利益	2,876	2,370	4,755
経常利益	2,590	2,083	4,372
当期純利益	257	2,155	2,506
総資産	75,146	84,810	85,891
純資産	51,942	53,797	56,033

■ 部門別売上高 (連結)

(百万円)

	第58期 2011年3月期	第59期 2012年3月期	第60期 2013年3月期
厨房部門	78,501	79,558	87,285
浴槽・洗面部門	17,885	19,050	21,257
その他	4,464	4,768	4,991
合計	100,851	103,377	113,533

■ 厨房部門 ■ 浴槽・洗面部門 ■ その他



厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S. S.」シリーズ、中・高級品クラスの「クリンレディ」シリーズ、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「hairo (はいろ)」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第60期の営業概況

市場環境

当連結会計年度における日本経済は、東日本大震災の復興需要を背景に緩やかな回復がみられる中、新政権による経済政策への期待から株高の動きがみられるなど、景気回復に対する期待感が高まりました。一方で、停滞する海外経済や、不安定な国内の雇用情勢な

ど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

住宅設備機器業界におきましては、復興需要に加え、政府による住宅取得支援策により、新設住宅着工戸数が2012年9月より連続して前年同月を上回るなど、回復基調で推移いたしました。

業績・成果

このような中、当社グループは、2012年6月にシンプルで洗練されたデザインでモデルチェンジしたシステムキッチン「ラクエラ」、2013年2月にステンレス技術を進化させてモデルチェンジしたシステムキッチン「クリンレディ」やフィルターを自動洗浄する「洗エールレンジフード」など、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、2012年7月にオープンした新しいコンセプトのショールーム「キッチンタウン・クリナップ・大阪」(梅田阪急ビルオフィスタワー26F)をはじめとして、全国14カ所のショールームを

移転・改装いたしました。また、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店との連携も深めながら、需要の獲得に努めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動(*)を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度に東日本大震災の影響があったこともあり、前年同期比9.8%増の1,135億33百万円となりました。利益面では営業利益は同100.6%増の47億55百万円、経常利益は同109.8%増の43億72百万円、当期純利益は同16.3%増の25億6百万円となりました。

*VE活動：VE (Value Engineering) は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第60期の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S. S.」は数量、金額とも大幅減、「クリンレディ」は数量、金額とも大幅増、「ラクエラ」は数量、金額とも大幅増となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比9.7%増の872億85百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも大幅増、「hairo (はいろ)」は数量、金額とも減、洗面化粧台は数量、金額とも増加となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比11.6%増の212億57百万円となりました。

連結財務諸表

(百万円)

■ 連結貸借対照表の要旨

流動資産 流動資産は前期末比1億86百万円増加し588億47百万円となりました。これは現金及び預金が9億55百万円、電子記録債権が24億64百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が32億9百万円減少したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比8億94百万円増加し270億43百万円となりました。これは生産設備の増強、ショールーム移転・改装等により有形固定資産が11億84百万円増加、情報基盤整備等により無形固定資産が1億82百万円増加した一方、繰延税金資産の減少8億13百万円および時価評価の影響もあり投資有価証券が4億16百万円の増加等で、投資その他の資産が4億72百万円減少したことによります。

資産合計 総資産は前期末比10億80百万円増加し858億91百万円となりました。

	第59期 2012年3月31日現在	第60期 2013年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	58,661	58,847
現金及び預金	23,735	24,690
受取手形及び売掛金	28,141	24,931
電子記録債権	—	2,464
その他	6,829	6,805
貸倒引当金	△ 44	△ 44
固定資産	26,149	27,043
有形固定資産	18,312	19,496
建物及び構築物	8,020	8,498
土地	6,708	6,704
その他	3,582	4,293
無形固定資産	1,685	1,867
投資その他の資産	6,152	5,679
投資有価証券	2,658	3,074
その他	3,592	2,703
貸倒引当金	△ 98	△ 98
資産合計	84,810	85,891

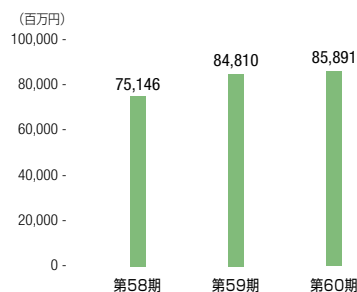
	第59期 2012年3月31日現在	第60期 2013年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	23,319	22,094
買掛金	6,454	6,849
その他	16,865	15,245
固定負債	7,693	7,762
長期借入金	3,168	3,168
退職給付引当金	1,780	1,793
役員退職慰労引当金	424	424
その他	2,319	2,376
負債合計	31,013	29,857
(純資産の部)		
株主資本	53,537	55,578
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	28,143	30,183
自己株式	△ 224	△ 224
その他の包括利益累計額	259	455
その他有価証券評価差額金	270	450
為替換算調整勘定	△ 10	5
純資産合計	53,797	56,033
負債純資産合計	84,810	85,891

流動負債 流動負債は前期末比12億25百万円減少し220億94百万円となりました。これは買掛金が3億95百万円、未払金が1億27百万円、未払法人税等が3億35百万円、未払消費税等が1億34百万円、賞与引当金が1億36百万円増加した一方、短期借入金が13億64百万円、1年内返済予定の長期借入金が9億83百万円減少したこと等によります。

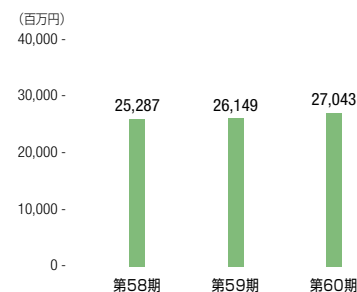
固定負債 固定負債は前期末比69百万円増加し77億62百万円となりました。

純資産合計 純資産合計は前期末比22億36百万円増加し560億33百万円となりました。これは当期純利益25億60百万円、その他有価証券評価差額金の増加1億80百万円、配当金の支払い4億65百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の63.4%から65.2%になりました。

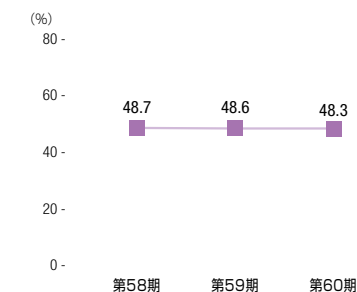
■ 資産合計



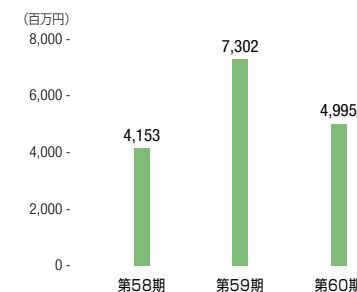
■ 固定資産



■ 固定比率

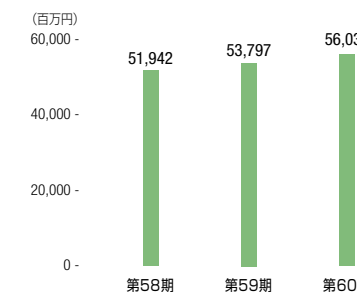


■ 有利子負債

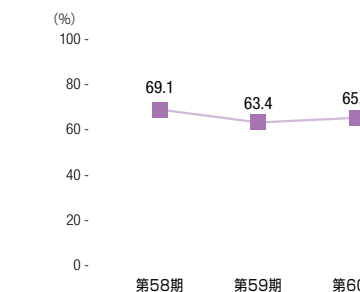


(※) 有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金、リース債務の合計。

■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結損益計算書および連結包括利益計算書の要旨

(百万円)

	第59期 2011年4月1日～ 2012年3月31日	第60期 2012年4月1日～ 2013年3月31日
(連結損益計算書)		
売上高	103,377	113,533
売上原価	69,519	74,774
売上総利益	33,858	38,758
販売費及び一般管理費	31,488	34,003
営業利益	2,370	4,755
営業外収益	473	512
営業外費用	760	895
経常利益	2,083	4,372
特別利益	187	71
特別損失	543	215
税金等調整前当期純利益	1,727	4,228
法人税等	△ 427	1,722
少数株主損益調整前当期純利益	2,155	2,506
当期純利益	2,155	2,506
(連結包括利益計算書)		
少数株主損益調整前当期純利益	2,155	2,506
その他の包括利益	165	195
包括利益	2,320	2,702

売上高 厨房部門、浴槽・洗面部門ともに前年同期比10%前後の増収となり、売上高は同9.8%増の1,135億33百万円となりました。

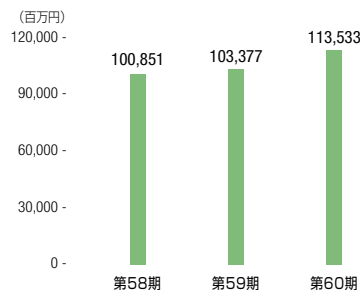
売上原価 増収に伴い増加したが、システム商品の単価アップやプロダクトミックスの改善により、原材料の値上げの影響はほとんど無く、売上原価率が前年同期比1.4ポイント低下し65.9%となりました。

販管費 販売促進費や広告宣伝費、人件費の増加、増収に伴う物流費等の増加により、販管費は前年同期比25億15百万円増加しましたが、販管費率は同0.5ポイント低下し30.0%となりました。

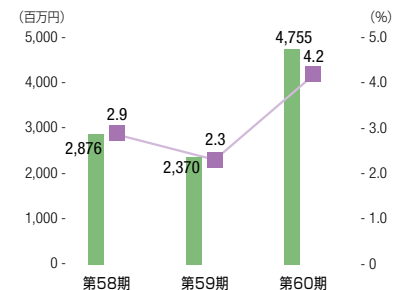
営業利益 大幅な増収のなか、売上原価率・販管費率がともに低下したことにより、営業利益は前年同期比100.6%増の47億55百万円となりました。

当期純利益 当期純利益は前年同期比16.3%増の25億6百万円となりました。

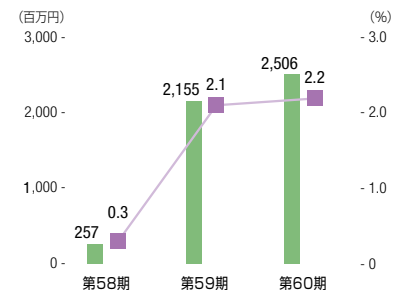
■ 売上高



■ 営業利益・営業利益率



■ 当期純利益・当期純利益率



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(百万円)

	第59期 2011年4月1日～ 2012年3月31日	第60期 2012年4月1日～ 2013年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 184	7,305
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,967	△ 3,445
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,601	△ 2,920
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	16
現金及び現金同等物の増減額	449	956
現金及び現金同等物の期首残高	25,798	26,248
現金及び現金同等物の期末残高	26,248	27,204

現金及び現金同等物の期末残高
これらにより、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ9億56百万円増加して272億4百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られた資金は73億5百万円(前年同期は1億84百万円の使用)となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が42億28百万円と大幅増益で、減価償却費が27億72百万円、売上債権の減少7億78百万円、仕入債務の増加3億95百万円があった一方、長期前払費用の増加2億59百万円、たな卸資産の増加3億61百万円、法人税等の支払額が4億86百万円あったこと等によります。

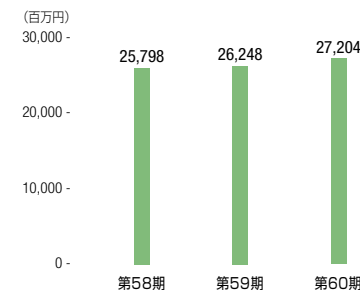
投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は34億45百万円(前年同期比75.1%増)となりました。これは主に、生産設備の増設および改修、ショールーム移転・改装等の有形固定資産の取得に伴う支出が25億16百万円、情報システム構築に伴う支出が8億68百万円、投資有価証券の取得による支出が2億6百万円あったこと等によります。

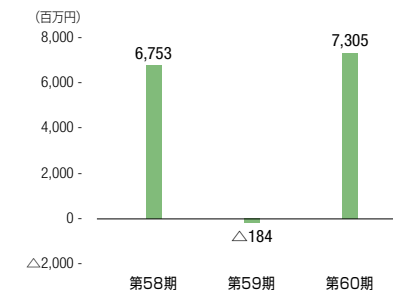
財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は29億20百万円(前年同期は26億1百万円の獲得)となりました。これは主に、短期借入金の純減13億64百万円、ファイナンス・リース債務の返済1億7百万円、長期借入金の約定返済27億82百万円、配当金の支払いが4億65百万円あった一方、長期借入による収入が18億円あったこと等によります。

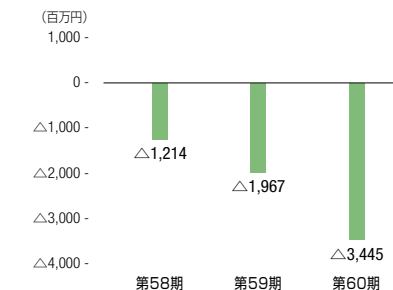
■ 現金及び現金同等物の期末残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株式関連情報 (2013年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

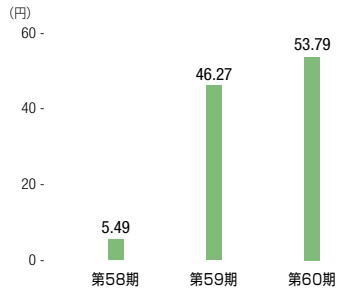
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益を上げ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、情

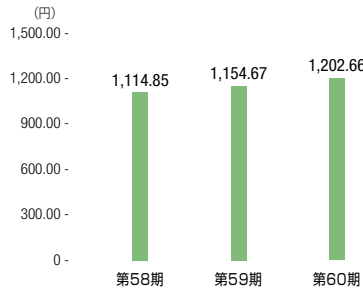
報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向上と資本効率の向上に努めてまいります。

なお、期末配当金につきましては、1株当たり10円とし、1株当たり年間15円の普通配当を実施(5円増配)させていただきました。

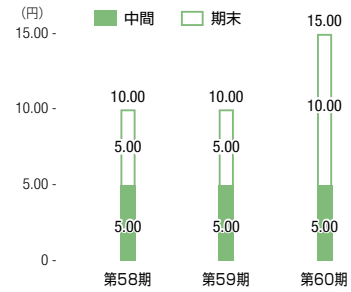
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産額

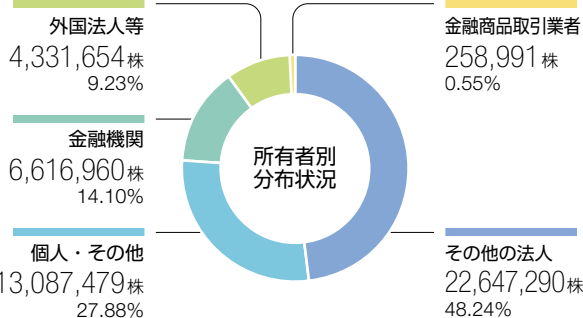


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 46,942,374 株
 株主数 4,875 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	12,476	26.7
株式会社タカヤス	6,829	14.6
クリナップ社員持株会	2,225	4.7
クリナップ真栄会	1,866	4.0
クリナップ共進会	1,499	3.2
ザバンク オブ ニューヨーク トリーティアー ジャステック アカウ	1,202	2.5
井上 けよ	1,133	2.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,014	2.1
株式会社三菱東京UFJ銀行	757	1.6
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.4

注) 持株比率は自己株式(350,758株)を控除して計算しております。

会社情報 (2013年3月31日現在)

■ 会社概要

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証2部上場
 1991年9月2日 東証1部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,288名 / 単体：2,627名
 主な事業所 支社：国内3カ所
 支店：国内5カ所
 営業所：国内123カ所
 海外：香港支店、北京事務所
 工場：四倉、鹿島システム、鹿島、湯本、クレート
 (いずれも福島県いわき市)

■ 役員 (2013年6月26日現在)

代表取締役社長 井上 強 一 常勤監査役 山根 康 正
 取締役 加藤 亨 一 常勤監査役 山本 幸 男
 取締役 小島 輝 夫 監査役 新谷 謙 一
 取締役 小松 裕 恒 監査役 有賀 文 宣
 取締役 鈴木 章
 取締役 松浦 昌 孝
 取締役 佐藤 茂
 取締役 屋代 光 昭
 取締役相談役 高嶋 信

注) 監査役 新谷謙一および有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。



■ ショールーム (全国102カ所)

北海道支店ブロック 4カ所 静岡支店ブロック 4カ所
 東北支店ブロック 13カ所 中部支店ブロック 13カ所
 東京支店ブロック 24カ所 関西支店ブロック 26カ所
 上信越支店ブロック 7カ所 九州支店ブロック 11カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

*株主・投資家の皆さまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
 また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。

